

佐世保市立江迎中学校

令和3年度「特色ある学校づくり対策事業」

確かな学力と正しい心を持ち、地域を愛し
力強く進路を切り開いていく生徒の育成

本校の概要

所在地	佐世保市江迎町乱橋584番地
校長	岩波直
生徒数	141名
学級数	9（特別支援学級3）

江迎中学校は佐世保市の北部に位置し、学校の立地する江迎町には旧平戸街道沿いに発達した歴史の古い商家や名刹が存在している。同町は旧産炭地であり、かつては江迎地区や猪調地区などを中心に賑わいを見せていたが、炭鉱閉山後は人口も減少し、平成22年には佐世保市と合併した。しかし、地域の人々は町政時代を忘れることなく、独立心をもって文化活動や教育に意欲的に取り組んでいる。江迎中学校もそのような地域に支えられ、期待される存在として、日々教育活動に邁進している。

生徒の実態と事業の目的

本校の生徒たちは素直で明るく、しっかりとした挨拶ができる。しかし進路に対する意識は乏しく、自主性、向上心に欠けるといった課題もある。

そのため本校では、「特色ある学校づくり対策事業」をとおして、外部人材の活用や地域交流を進め、生徒たちの進路意識や自主性を高めることで、生徒たちが自らの進路を切り開く意欲・能力を育成することとした。

実践内容・成果

1 学力の向上

(1)小学校及び高等学校の教科書の活用

小学校での学習内容の復習を目的として、小学校5、6年生用の教科書を購入した。小学校の教科書を処分してしまった生徒もいるため、授業中に貸し出せるようにした。また、いくつかの高等学校で使用する教科書を購入し、進学についての意識を高めるとともに、職員が高等学校の学習内容を把握し、学習指導に役立てられるようにした。



(2)特別支援学級の生徒の学力保障

特別支援学級に在籍している生徒たちの進学に向けて、学力向上を目的として、各種教材を購入し、様々な場面で活用している。



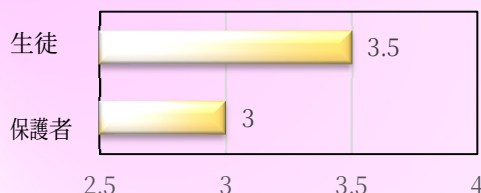
(3)障害者に対する理解の深化

障害を持つ人々への理解を深めるため、障害者スポーツ用具(ボッチャ)を購入し、各学年のレクレーションや野外活動に使用した。人権集会での第1学年の発表にも活用した。



分かりやすい授業がなされている

令和3年度学校評価(生徒)



■ 4 当てはまる 2 あまり当てはまらない
3 やや当てはまる 1 当てはまらない

(成果と課題)

令和3年度学校評価(生徒)によると、「授業がわかりやすい」と答えた生徒は上のとおりである。より一層授業改善に努めつつ、読解力や学びに向かう力の向上、家庭学習の充実による学習内容の定着やタブレットの効果的な活用等を図らねばならない。

2 地域との連携

(1)情報発信の多角化

- ① 月に2～3号の割合で学校便りを発刊し、各家庭や地域の公民館に配布した。また学校HPには、「学校からのお知らせ」や「令和3年度の特集」のコーナーで、学校のできごとや行事等の案内を行った。
- ② 豪雨などへの対応や、コロナウイルス感染拡大防止など、緊急時に一斉メール（江迎中安心メール）を配信した。家庭に迅速な連絡を行うことができた。

(2)外部人材の活用

- ① 命と健康を考える日（令和3年7月1日）

小児科医の岡田雅彦先生を講師としてお招きし一人一人の体の特徴の違いを知り、自他の命の尊さについて考えさせるという内容で講演会を実施した。生徒たちは興味をもって聴講し、生きることの意味を考えることができた。



- ② 平和祈念集会（令和3年8月9日）

8月9日の「県民祈りの日」に被爆体験者の方による講演会を実施した。新型コロナウイルス感染拡大のため、別室からリモートで各教室に配信した。生徒たちは、平和の尊さを実感するとともに、江迎中学校平和宣言を読み上げ、平和な社会の実現に向け、誓いを新たにした。



- ③ 道徳・進路に関する講話（令和3年9月16.22日）

第3学年の生徒対象に関西の会社の社長で予備校講師の経験を持たれている的場先生を講師として、「生き方」についてのリモート講話を実施した。また、保険会社からお二人の講師を招き「ライフデザイン」の講話を実施した。



- ④ SNS講演会（令和3年10月31日）

長崎県メディア安全指導員の岩崎けい子先生をお招きし、SNS講演会を実施した。インターネットによる誹謗中傷や個人情報の流出などを題材として、ネット利用の落とし穴やその怖さを講義していただいた。



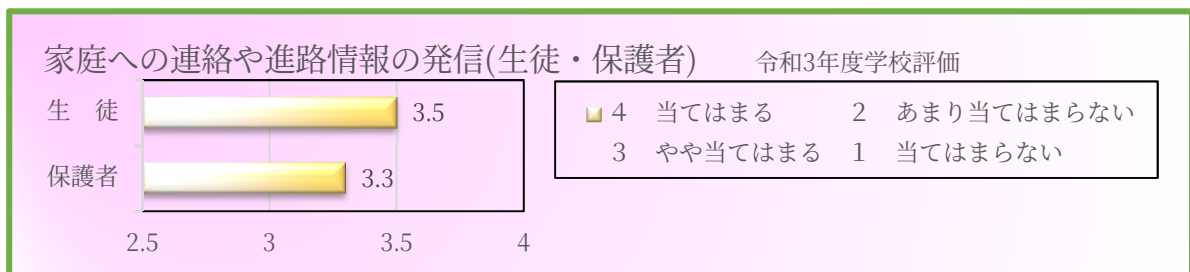
⑤ 保健体育・弓道 （令和3年12月）

江迎弓道会の方々を、第3学年の保健体育の授業の外部講師として招聘し、本校の武道館（弓道場）で8時間の授業を実施した。生徒たちも興味をもって参加し、高校進学後に弓道部入部を希望する生徒も見られた。



⑥ 職場体験学習 （令和3年12月14・15日）

コロナウイルス感染拡大のため、今年度は職場体験学習を通常3日間から2日間に短縮して実施し、福祉施設や地元企業、公共施設などで体験活動を行った。生徒たちの活動に対し、事業所からはお褒めの言葉を多数いただき、生徒らも達成感と自信を得ることができた。



(成果と課題)

令和3年度学校評価によると、「学校は、家庭への連絡、進路の情報提供などをきちんと行っている。」(情報発信)と答えた生徒・保護者は多かった。今後、計画的かつ頻繁に情報発信を行い、保護者との連携や地域との交流などを積極的に進め、生徒の進路意識を向上させていく必要がある。

来年度に向けて

学校評価の結果、数項目で若干の数値の低下が見られた。生徒の学力や生活について、保護者、職員、そして生徒自身も危機感をもっている。特に「読書の習慣がない」と認識している点は問題である。読解力向上にも関係する事項ととらえ、読書の習慣を身につけさせる必要がある。なお外部講師による講演会、授業は大変活発であり地域連携も進んでいる。このような取組は継続していかなければならない。